

○14番 梅村奏太君

行橋中学校3年、梅村奏太です。私は、行橋市の道の拡張について質問します。

最近、いろいろな自然災害が起こり、たくさんの被害があっています。行橋市では今のところ大きな災害はありませんが、この先もないとは限りません。

そこで、道の拡張をすることで、避難もしやすくなるのではないのでしょうか。また交通面でも事故が減り、行橋市の人々がさらに安心して暮らすことができると思うのですが、どうお考えでしょうか。

○議長 龍山咲良君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

梅村議員の御質問にお答えいたします。

まず、市には国道、県道、市道とありまして、市道に関して言いますと、約580キロメートルほどございます。そして2236路線あります。これらのうち、狭い道を拡張すること、幅を広げるということで、拡張もしくは拡幅という言葉を使ったりしますが、この狭い道路を拡張・拡幅することができたら、議員おっしゃるように大規模な災害が例えば起こったときなどにも避難者がスムーズに避難できる、あるいは渋滞を緩和する、渋滞ができるだけ起こらないようにする、また消防車や、それから重機ですか、ショベルカーだったりとか、そういった大きな車ですね、こういったもののことを考えても、やはり道が広いと非常に有効であるというふうに考えております。

ただですね、道路の拡張・拡幅をすることを考えたときに、まず幅を広げたり、あるいは幅を広げた後に歩道を例えば設置するとか、そういったことを考えた場合に、まず計画をつくるための調査費、それから住民の皆様方から広げる土地の部分を買わなければいけない、その時の用地を買うための用地費、それから建物などを移動してもらうための補償費、それから整備、工事を進めていくための工事費、そういった部分で非常にお金がかかっていくわけでございます。また、完成までに非常に時間もかかるわけでありまして。

このようなことから、市内の全ての道路を拡幅したり、あるいは拡張した後に歩道をつくるということは、現実的に考えると結構ハードルが高い、難しいわけなんですね。そのため、道路の利用状況や危険度等を見て、まず優先順位をできるだけつけるようにしています。そしてその優先順位を付けた上で、行橋市では、特に通学路になっているような道路を、優先順位を高くしております。

議員がおっしゃるように、災害時には、道路は非常に重要な役割を果たしますので、今後は、議員からいただいた災害、防災の観点といったものをさらにしっかりと考えて、この道づくり、道の拡幅・拡張といったものを進めていきたいと思っております。以上です。

○議長 龍山咲良君

梅村議員。

○14番 梅村奏太君

ありがとうございました。次の質問に移ります。

道路を工事で広げることが、どれだけ大変なのか理解できました。それでは、狭い道路や工事で広げていくことに時間がかかる道路について、歩行者の安全対策は、どのように行っていくのですか。

○議長 龍山咲良君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

御質問にお答えいたします。大きく分けるとハード面とソフト面という言い方ができると思いますけれども、まずハード面に関してなんですが、現在、行橋市では歩道の整備について、主要なものを5箇所ほどいま現在行っています。また、その他にも安全性を確保する対策として、まず白線などをもう1回濃く引き直したり、それから歩行者の通行部分を緑色に塗る、これはいわゆるグリーンベルトと言われてはいますが、結構市内でも増えてきたと思うんですが、こういったグリーンベルトといったものを増やしております。こうすることで車にも歩行者が通る道ということを、より意識していただくことができるわけですね。

また、先程申し上げました通学路対策においては、警察、国・県、そして我々市の道路担当者と各小学校の関係者、学校の先生方だったり場合によってはPTAの方々、そういった方々の御協力をいただきまして、通学路の安全確保のための合同点検を行ったりしています。そしてその中で、歩道でしたり、防護柵、ガードレールやそういったものの整備を計画的に進めていくということをやっております。

またソフト面というところで言いますと、ものをつくるだけじゃなくて、我々、人ができることで言いますと、登下校時ですね、地域の方々が御協力くださって、主要な所、例えば交差点などに立っていただくことで安全指導をしていただく。また教育委員会としましても、学校安全指導員という方がおりまして、そういった方々に、地域の方々と同じように歩道や交通量の多い所に立っていただいて安全対策を行っております。

今後も様々なかたち、ハード面、あるいはソフト面、両方を生かしながら市民の皆様、特に歩行者の皆様の安全対策に努めてまいりたいと思います。以上です。

○議長 龍山咲良君

梅村議員。

○14番 梅村奏太君

以上で質問を終わります。私もソフト面で友達と登下校をする際は、横に広がらず縦で、なるべく道路を広く使えるように意識していきたと思います。ありがとうございました。